

## 実技試験総評

### 手 書 き

採点の基準や合格点はこれまで同様です。内容、表記や日本語の使い方、文章構成も含めた総合で70点以上です。

読みやすさに関しては、地域による指導や認識の差が非常に大きく出たように思われます。養成講座の最初に「表記」の指導を徹底してほしいと思います。ロールやノートテイクの文字の大きさは要約筆記者養成テキスト上巻P43、下巻P65(中段)にある文字の大きさを参考にしてください。

今回は、漢字表記を求めた用語はないですが、「改正」「使命感」を「改政」「指名感」と書く間違いが多くありました。また、略号・略語が使えない人も思いのほか多く、受験以前の課題のように思います。

### パソコン

6分以内の音源でしたから、入力の字数として300～350字あれば、一定の内容は入ったと思います。全体的には入力に安定感のある人が増えたように思います。

文字数を多く入力しようとして、誤入力する人も減りました。一方で、極端に文字数が少なく、文字数に合わせて内容が要約されているとはいえないものも少なからずありました。事業者がパソコン要約筆記の今後の需要に対応する人が欲しいと考えるなら、かなり厳しいと感じました。

「障害者差別解消法を知ろう」

崔栄繁氏

崔／推進会議は、1回の開催が4時間と政府の会議では珍しいものでした。障害当事者には精神障害者、知的障害者も入り、これも画期的でした。障害者が参加できるよう、さまざま工夫がされました。盲ろう者や聴覚障害者でも手話を使う方、難聴で要約筆記を使う方、視覚障害者で点字と資料を使う方もいました。いろいろな障害者に合わせて、運営も大変だったと思います。しかし、推進会議の進め方は、今後の参考になると思います。

推進会議はシナリオがなく、政府の会議では珍しいものでした。まず、第1次意見を決めました。2番です。第1次意見の正式名称は、「障害者制度改革の推進のための基本的な方向（第1次意見）」です。すべての分野について東さんと推進会議メンバーが問題点を洗い出し、改革への気概を示し意見にまとめました。

内容は3項目。1つは、基礎的な課題、改革の方向性です。地域で障害者も平等に暮らすという大きな方向性。もう1つは横断的な方法。障害者基本法の改正や改革の推進体制、差別禁止法の制定などです。3つめが個別分野です。横断的課題では教育、労働、移動、情報保障など各分野を横断して基本法や差別禁止法ができました。そして就労、教育や障害者支援等、合計で11個の個別課題が示されました。

この3つが整理され、改革の工程表を作りました、改正の期限や議論の期間を決めたのが大きな特徴です。第1次意見をもとに閣議決定を行い、工程表を作りました。閣議決定したものが基本的な方向です。第1次意見の工程表に基づき、細かいところは後で議論すると整理されました。

閣議決定された3本柱が1)～3)です。1つ目が障害者基本法の改正。2番目に障害者自立支援法を廃止し、障害者総合福祉法を作ること。3つ目に障害者差別禁止法の制定です。工程表に即して、推進会議の議論が始まりました。最初の議論が、障害者基本法の改正です。

**評価点：**「資料を活用する」意識と技術の有無が差になりました。障害者制度改革以降の情勢を知らないと背景までの把握は困難ですが、資料をうまく活用して大きく齟齬のでない要約筆記ができた人もあります。一方で、聞いた話を部分だけをつなげたため、内容の間違いになり減点された例もあります。第5講の共有情報の活用の正しい理解が薄いということです。

『「生きる意味」を取り戻し、真に豊かな社会の実現へ』

上田紀行氏

上田／東工大にリベラルアーツセンターを作った理由から。テーマと関係しますが、大学生の教養がなくなったから。

私の高校時代、理科系でも文系の本を読みました。岩波新書など。今の学生は試験に出る勉強だけです。数学と物理と化学と英語さえやればいいと。先生から歴史の本を勧められる。すると、有名大学に入らないと先生の評価が下がる、と反論します。無駄な歴史より数学と物理だと言います。こうした風潮がありますね。短期的評価の出るもの以外は無駄と考える。入試に出るものに集中すればいいと。

しかし、その学生は大きな欠陥、問題を抱えるのです。誰かが作った問いは解けても、自分で問いを作れないのは大問題。自分が人生をかけて取り組む大きな問い、使命がわからないのです。物理の問題が解けてもこの答えは出てきません。教養や文明観、世界観が必要になる。文学もそう。人生の楽しみや苦しみ、その解放を考えられないのです。世界で起きている苦しみへの貢献や自分の使命など、本質を問えない学生が生まれてきています。いまこそ教養教育を建て直すべきと、センターを作り、池上彰さんらと実践しているところです。

私は文化人類学専攻。一時期流行した学問ですが。世界各国で文化を調査します。私はスリランカで日本の文化との比較をしました。人間がどのように元気を失い、また、どう回復するのかに興味がありました。スリランカに20代の後半2年間ぐらいいました。病院でも元気が回復しない人に、200人ぐらいの村の人が徹夜で悪魔払いする。それは楽しくて、笑いあり、踊りありの元気になる村祭りです。そこで人間が元気になる理由を研究、帰国後、日本には「癒やし」が重要だと言った。これは造語。癒すという動詞はありますが、名詞はない。日本には癒やしが重要だと、名詞化して私たちが言い出したのです。

評価点：一般的な知識で対応できる話題でした。話しことばの冗長さの処理ができていれば、リベラルアーツセンター設置の理由と大学生の教養の低下、教養が深い人生観、世界観につながるといった展開には追い付けたと思います。3段落目では、文化人類学者である話者の研究体験とそこから派生した「癒し」の必要性の関連で差がつかしました。

## 「障害者の権利条約と国内法の基本理念」

葛谷潔昭氏

葛谷／障害者の権利条約の定義、第2条です。読みます。法律特有の長い文なので、ポイントを次のスライドで4点あげます。

1点目。他の人々との平等性。障害の有無でなく、人はすべて平等ということ。平等には機会の平等、結果の平等があるが、可能な限り、平等であるべき。平等の感覚が感じられるようにです。そこに考えはおよんでいます。「すべての人権及び基本的自由を享有し」と条約にあります。人間として当たり前の基本権を保障していると。

2つ目にもつながります。その人らしい人生を送る、意見や生き方の自由を保障し、人の権利の行使を保つ、確保するがポイントになってきます。

しかし、障害をポイントにするのが、障害者の権利条約というものです。

その意味で、「特定の場合に必要とされる」という文言が必要です。教育の分野で考えると、一般の学級で障害のある方が授業を受けるには情報保障が必要です。先生の話伝える。聴覚障害の方にはノートテイクの援助者を用意、電子機器で文字表示とか。一緒に学べる環境や条件を整えます。これを特別支援と呼びます。

健全な方と同様になる条件を作る。これに触れないと、障害のある方の権利を守る条約となり得ないです。だから「特定の場合に必要とされる」となっています。

合理的配慮、4点目です。「過度の負担を課さない」は日本でも国連でも議論があり、各国の法律でも難しいところです。障害者向けの社会を作ると、健全の方が生きにくくなるとの意見もです。バリアフリーは全てに優しい社会になると私は思います。でも、経済の発展や商品の開発や、情報環境の整備など障害への配慮が開発されるまで待てない。経済活動が止まってしまいますから。だから健全な方に合わせた商品や環境を整え、その利益で、障害のある方への配慮も加える、そういう意見も出されています。

評価点：資料のある場面のノートテイク設定でした。権利条約の内容は筆記試験対策でも学習した効果があったと思われ、内容的にはとれている人が多かったと思います。ただ、知識が薄く、かつ、資料も使いこなせないため、『平等』の概念の説明があいまい、あるいは間違いになったとものがありました。

「認知症医療の現状と予防の可能性」

朝田隆氏

朝田／予想を超えた患者の増加。最大の原因は、予想以上の寿命の伸びです。女性は87才、男性は80才。認知症は年が5つあがるごとに、リスク2倍になる。80、87才は想定外で、その分、認知症の数も増えたといえます。

862万人は机上の数ではないです。全国の10の市町で、65才以上の方を1000名ぐらい集めて面接やテストしたもの。認知症、予備軍、シロと分けていく。10の自治体の結果を集計し、人口構成にあてはめた統計学的な根拠のある数字です。多くは大学病院で調査。北は東北大学の宮城県栗原市、茨城県つくば市の筑波大学、南は九州大学、佐賀大学などです。

認知症の検査は、難しい。顔を見て、呆けている、呆けていないとはならない。認知症は、認知機能、つまり記憶や注意力、計算力などの知能の障害のために生活が自立できないことです。体の障害ではない。知能の障害で忘れる、注意不足、算数ができないなど、日常生活が営めない状態です。

では認知機能の障害とは、これもむずかしい。調査も、顔をみてテストだけではない。最初に、訓練された調査員が調査対象宅を回ります。生活ぶりを見たり、インタビューします。私は筑波大学の朝田です。2週間後にもう一回テストするので、私の名前、人相、年齢の特徴とか覚えてと、思い出づくりをします。

アルツハイマー病の最大の特徴は、あるエピソードをごっそり忘れてしまうこと。さっき聞いたけど忘れたという程度ではない。2週間前にお孫さんの結婚式が都内のホテルであったとする。ホテルの名前、料理が和食か洋食か、最後にあいさつをしたのは誰か、すべてのエピソードを忘れてしまうのがアルツハイマー病の特徴。誰しも細かいことは忘れるかもしれませんが。最後にあいさつした人は忘れるかもしれない。けれど、結婚式の披露宴があり自分も行った、みんなと歓談した、これがごっそり抜けます。そんなことがあったかと。孫の結婚式ごとエピソードがすっかり抜けるのが特徴です。

評価点：社会問題である認知症がテーマで、話の内容がつかめない人はいなかったと思いますが、切れ目のない話し方でした。入力が早くても文章が冗長で分かりづらいもの、主述の関係が乱れたものがありました。しかし、全体ではパソコン2は受験者数の7割以上の方が70点を超えていました。